

岩手県奥州市江刺の水田で観察されたトンボ

渡辺 修二

Dragonflies spotted near rice paddies in Esashi, Oshu City, Iwate Prefecture

Shuji WATANABE

岩手県立博物館 020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34 Iwate Prefectural Museum, Ueda Matsuyashiki 34, Morioka City, 020-0102, Japan.

Abstract

On July 5 and 9, 2022, 14 dragonflies from eight families were discovered near rice paddies in Esashi, Oshu City, Iwate Prefecture.

はじめに

2022年7月9日、有限会社ピースの依頼により、奥州市江刺の水田で行われた生きもの調査隊（自然観察会）に講師として参加した。観察会及びそれに先立ち実施した下見の際に確認したトンボを報告する。

方法

2022年7月5日及び9日に、奥州市江刺稲瀬の水田及び隣接する休耕田で、トンボを目視あるいは網で採集して種を確認した。種の同定及び学名はネイチャーガイド日本のトンボ（尾園ほか2012）を参照した。

結果

調査地の一帯は周辺より20mほど低い土地にあり、水田の面積は約1ha、その東隣りには、面積が約0.4haで、草本類が繁茂する湿地状の休耕田がある。調査地の南側には、小川を隔てて小規模な森林があり、小川は休耕田の東側にある小さなため池を水源としている。水田の北側には直線的な水路があり、その奥の北西側には森林があり、北東側には他の水田が広がっている。

調査は水田の周辺及び休耕田の中で行い、以下のとおり8科14種のトンボを確認した。観察されたそれぞれの個体数の概略を表1にまとめた。

確認されたトンボ一覧

アオイトトンボ科 Lestidae

オオアオイトトンボ *Lestes temporalis* Selys, 1883

カワトンボ科 Calopterygidae

ニホンカワトンボ *Mnais costalis* Selys, 1869

ハグロトンボ *Atrocalopteryx atrata* (Selys, 1853)

モノサシトンボ科 Platycnemididae

モノサシトンボ *Pseudocopteryx annulata* (Selys, 1863)

イトトンボ科 Coenagrionidae

オゼイトトンボ *Coenagrion terue* (Asahina, 1949)

アジアイトトンボ *Ischnura asiatica* (Brauer, 1865)

ヤンマ科 Aeshnidae

ギンヤンマ *Anax parthenope* (Selys, 1839)

サナエトンボ科 Gomphidae

コオニヤンマ *Sieboldius albardae* Selys, 1886

オニヤンマ科 Cordulegastridae

オニヤンマ *Anotogaster sieboldii* (Selys, 1854)

トンボ科 Libellulidae

- ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum* (Selys, 1883)
 アキアカネ *Sympetrum frequens* (Selys, 1883)
 ハラビロトンボ *Lyriothemis pachygastra* (Selys, 1878)
 シオカラトンボ *Orthetrum albistylum* (Selys, 1848)
 オオシオカラトンボ *Orthetrum melania* (Selys, 1883)

表 1 確認されたトンボの個体数

個体数	種名
10 頭以上	オオアオイトトンボ, オゼイトトンボ, オニヤンマ, アキアカネ, ハラビロトンボ
4~9 頭	ニホンカワトンボ, ハグロトンボ, コオニヤンマ, ノシメトンボ, シオカラトンボ
2~3 頭	モノサシトンボ, オオシオカラトンボ
1 頭	アジアイトンボ, ギンヤンマ

個体数は、オオシオカラトンボは 7/9、その他のトンボは 7/5 における確認数に基づく。

水田では特にオオアオイトトンボが多く見られた。下見を行った 7 月 5 日に、羽化直後と思われる個体が水田全体で見られるほど非常に個体数が多かったが、観察会を行った 7 月 9 日にはほとんど見られず、周辺の森林に移動したと思われる。コオニヤンマ、シオカラトンボは水田上を周回するように飛ぶ姿が見られた。ニホンカワトンボ、ハグロトンボ、モノサシトンボ、オオシオカラトンボは南側の小川沿いで見られた。オゼイトトンボ、ハラビロトンボは主に休耕田やその周辺で見られた。オニヤンマは水田よりも西側に多く、数メートル以上上方を飛んでいる個体が多かった。アキアカネ、ノシメトンボは付近一帯で見られたが、まだ個体数は多くなかった。アジアイトンボ、ギンヤンマは 7 月 5 日にそれぞれ 1 頭だけ観察された。

考察

調査地は起伏のある地形で、水田と湿地状の休耕田、ため池、護岸されていない小川、森林など、景観や水域の多様性があることに加え、水田では無農薬で栽培が行われており、殺虫剤の影響を受けないため、周辺の水田に比べ多様なトンボが生息し、かつ個体数も多かった。特に、休耕田の存在がオゼイトトンボの生息に重要であろう。ため池や小川にはアメリカザリガニが生息しているが、トンボの幼虫が生息できる環境がまだ維持されている様子であった。農薬の影響を受けていない、地域のトンボ相を把握できる貴重な環境で

ある。

謝辞

有限会社ピースの代表者 家子秀都様と社員の皆様に、トンボ相を調査する機会をいただいたこと、また論文の内容を確認していただいたことに感謝申し上げます。

引用文献

尾園暁・川島逸郎・二橋亮 (2012) ネイチャーガイド 日本のトンボ。文一総合出版、東京都。

要 旨

2022 年 7 月 5 日及び 9 日に、奥州市江刺稲瀬の水田で、8 科 14 種のトンボを確認した。

キーワード：トンボ相，調査記録，奥州市，水田